

兵庫県立芦屋高等学校オープンカレッジ・ジャズ文化と出会おう！

第2回ジャズ文化の歴史Ⅱ

2015.8.29

岡村正史

1. 日米共通のジャズ認識

スイング=大衆向けダンス・ミュージック（米…戦前、戦中、日本…戦前～戦後初期）

アメリカを代表する音楽

白人バンドリーダー多し

ビバップ=ダンスを拒否。通向けのアンダーグラウンド音楽。

鑑賞用音楽を志向。

黒人（男性）中心。

2. アメリカのスイング音楽

1935年～終戦 全盛（1939年の全米レコード売上のうち85%を占める）

ラジオ（全米世帯普及率1939年80%、平均聴取時間5時間）、ジャーブックスで聞く。

有名なビッグバンド（デューク・エリントン、ベニー・グッドマン）の地方ツアー拡大。

※大恐慌と第二次世界大戦の間に開花した明るい音楽。

ビッグバンド=困難な時期に団結の重要性。「アメリカ国民の音楽」

「アメリカ民主主義の象徴」…スイングの演奏の主体は黒人、白人マイノリティ（ユダヤ系、イタリア系など）1935年にベニー・グッドマンは自分の少人数のグループに黒人を迎える。

1940年代初期にフレッチャー・ヘンダーソンら黒人バンドリーダーが白人奏者を迎える。

「人種混合」は進んだものの、実際は人種差別が制度化され、実質的な人種隔離が続いていた。

スイングは「アメリカ民主主義の象徴」というよりは人種差別廃止の可能性に灯りをともした。

●第二次世界大戦中、スイングは国威発揚の役割を担った。グレン・ミラー行方不明。

1946年 ベニー・グッドマン、ハリー・ジェームスなど有名ビッグバンドが次々に解散。

→スイング時代の終焉

3. 戦前日本のジャズ

（1）大正時代（1912～1926）

大正中期 大都会を中心にダンス熱高まる。

大正12（1923）年春頃 井田一郎、ラッフィングスターズを六甲山で結成

9.1 関東大震災

震災後の大阪、神戸中心のカフェ（ダンスホール）で「ジャズ」に合わせてモガ、モボが踊る

→ジャズとモダン文化の密着。谷崎潤一郎『痴人の愛』（1924）

（2）昭和・戦前（1926～1945）

近代メディアの発達…レコード、映画

大手レコード会社（ほとんどが外資系…ポリドール、日本コロンビア、日本ピクター）が欧米のクラシックやポピュラー音楽を輸入盤で紹介。

●昭和3（1928）年 二村定一 ■「青空」（My Blue Heaven）「アラビアの唄」（Song of Araby）発表 →日本語で歌った初の「ジャズ・ソング」

●昭和4（1929）年 日活映画『東京行進曲』（監督・溝口健二）の同名主題歌（作詞・西条八十、作曲・中山晋平、歌・佐藤千夜子）が流行

「昔恋しい銀座の柳／仇な年増を誰が知る／ジャズで踊ってリキュルで更けて／明けりやダンサの涙雨」

同年、東京に初のジャズ喫茶誕生。川端康成「浅草紅団」東京朝日新聞夕刊に連載開始。

●ダンスホールが国内の大都会のみならず、地方、朝鮮半島や満州などの植民地に出現。

- 日本のミュージシャンは「東洋のジャズの都」上海を目指す。
「上海帰り」は高級取り。南里文雄、服部良一など。「上海パンスキング」の世界。
- 昭和 12 (1937) 年 日中戦争勃発→上海のジャズ衰退。軍国主義による風俗取り締まり厳格化。
給
- 昭和 15 (1940) 年 日本全国のダンスホールに対する閉鎖命令
- 昭和 16 (1941) 年 真珠湾攻撃。ジャズは「敵性音楽」に。
※戦前の「ジャズ」はダンス音楽であり、日本語の歌詞がついたジャズ曲が人気を博した。

4. 戦後日本のジャズ

(1) 1945 年～1950 年代の状況

「ジャズ」＝「アメリカから入ってきた大衆音楽全体」(タンゴ、ハワイアン、ウェスタンも)
 「ジャズ」＝スイング＝ダンス音楽 いまだに「ベニー・グッドマンの全盛期」米映画の影響。
 占領下の日本（1945～1951）では進駐軍放送のラジオ番組でスイングに聴きなじむ
 昭和 22 (1947) 年創刊『Swing Journal』誌の副題は「ダンスとスキング・ミュージックの雑誌」
 「進駐軍クラブ」でミュージシャンは仕事をこなした。

※日本においても、生活の厳しい時代にスイングが流行した。

ただし、アメリカと違い、日本にとってジャズは「他者の音楽」

♪アーティ・ショウ 楽団 Stardust

(2) ビバップ

アメリカにおけるビバップ全盛期…1945～1950 年代初期

日本における受容…1950 年代から

守安祥太郎 (p,1924～1955) 『幻のモカンボ・セッション'54』(穠吉敏子、渡辺貞夫、宮沢昭、ハナ肇、植木等らが参加。セッションは三日間に及んだが、最終日のみ録音が残る。)

※ビバップの影響

- ①花形楽器の変化 クラリネット、トロンボーン後退→トランペット、サックスへ
- ②演奏場の変化 スイング…ダンスホール、占領軍基地内クラブ (全国に点在)
ビバップ…大都会の狭く暗いジャズクラブ
- ③ミュージシャンの意識の変化 隠語を好み (ズージャなど)、商品化 (大衆化) に抵抗
ソロの即興プレイ中心の少人数編成による通向け音楽

※日本にビバップ全盛期はなかった！？ (アンダーグラウンドに終わる)

昭和 28 (1953) 年 第 1 次ジャズブーム…スイング中心。ジーン・クルーパー・トリオの
来日 (1952) ジョージ川口 (1927～2003) とビッグ 4

昭和 30 (1955) 年 守安祥太郎自殺

昭和 31 (1956) 年 究吉敏子 (p,1929～) 渡米 (日本人と女性という二重のハンディ)

(3) 1950 年代末以降の状況

●ビバップのモダンジャズへの影響

1950 年代まではジャズは大衆音楽のイメージが強かった。この間に、アメリカではビバップは全盛期を過ぎていたが、日本においてジャズ演奏の主流を決定づけた。ピアノ、ベース、ドラムの楽器の奏法はビバップを継承し、少人数編成のグループがメインとなったのもビバップの影響だろう。ジャズは黒人によって創られた、即興を中心とする音楽というイメージが形成された。

●昭和 33 (1958) 年『死刑台のエレベーター』公開 (監督ルイ・マル、音楽マイルス・デイヴィス) → 知識人がモダンジャズに注目する契機

昭和 36 (1961) 年 アート・ブレイキーとジャズメッセンジャーズ来日

■「モーニン」Moanin'がヒット →第 2 次 (モダン) ジャズ・ブーム、ジャズ喫茶急増

昭和 37 (1962) 年 渡辺貞夫 (s,1933～) がバークリー音楽院に留学、3 年後に帰国。

→ 日本ジャズ界のリーダーとなる。ボサノヴァ、フュージョンにも取り組む。

(4) ジャズ喫茶の全盛 1960～1970 年代

薄暗い空間、紫煙たなびく中で私語を禁止され、大音量のモダンジャズのレコードをコーヒーを

すすりながら真剣に聴く場所。

「モダンジャズを理解することは、もはや近代青年の教養のひとつになった観があります」（油井正一、1961）→ インテリを志向する大学生が通う。一種の通過儀礼。

※高価なレコードをコーヒーハウスだけで聴ける場所。

※モダンジャズやフリージャズを専らとし、文化人が集う文化の拠点。

※ジャズ喫茶によくマッチしたのはジョン・コルトレーン (ts 1926~1967) の求道者的真面目さ。

■「ジャイアント・ステップス」 Giant Steps

●60年代末～70年代初め…学生運動高揚期

・フリージャズの高揚…山下洋輔 (p,1942~)、富樫雅彦 (d,perc,1940~2007)、佐藤允彦 (p,1941~)

♪佐藤允彦 ワルツ・ステップ Waltz Step (曲 富樫雅彦)

・文化人がフリージャズを称揚…中上健二、白石かずこ、唐十郎、若松孝二など「新宿文化人」

・ジャズ革命論者の出現…相倉久人、平岡正明

(5) 1980年代以降の状況

●ジャズ喫茶の変質

・オーディオ・システム重視を強める。

・「私語禁止」ルールの崩壊 →普通の喫茶店、ジャズバー、ライブハウスに転身

●バブル期…アメリカのミュージシャンが大挙来日。各種ジャズフェス盛ん。アメリカのジャズミュージシャンの収入の3分の2は日本でのライブ演奏、CD売り上げとの説あり。

セレクト・ライブ・アンダー・ザ・スカイ (1977~92)、ニューポート・ジャズ・フェスティバル・イン斑尾 (1982~94/1998~2003)、マウントフジ・ジャズ・フェスティバル (1986~2004)

●有線放送の普及

●ジャズはノスタルジーの対象…映画、文学

●ブランフォード・マルサリスの日本人批判「彼ら（日本人）はジャズというものをアメリカ体験のひとつとして捉えている。でも理解しているかというと、ほとんどの人は理解しちゃいないね。とにかく僕のコンサートに来る客について言えばそうだ。」(アメリカ版『プレイボーイ』1993年12月号) →村上春樹「ひとつの日米文化摩擦についての考察」『現代』1994年10月号

5. 神戸のジャズ

- ディキシーやスイングが盛ん。学生、アマチュアの活動が活発。映画「スwingガールズ」のモデルは兵庫県立高砂高校。ライブハウスの雰囲気は中・高年層を中心にアットホーム。「神戸ジャズストリート」のHPには「ジャズは日進月歩というけれど、神戸は違う。クラシック・ジャズというかオーソドックスなジャズを守り続けている」との末広光夫 (1929~2012) の言葉が掲載されている。また、ピアニストで神戸ジャズシティ委員会委員長小曾根実 (p,1934~) も「神戸のジャズは、ジャズの最先端をいくモダンジャズより、少し古い時代のジャズ、「スwing」が主流です」と書いている。
- それに比してモダンジャズ熱は必ずしも盛んではない。日本におけるジャズ喫茶の二大中心地とは東京と京都であって、神戸ではない。
- 1973年～1984年まで神戸文化大ホールで「ワイドワイドジャズ」という大規模なジャズフェスティバルが開催されていた。渡辺貞夫、山下洋輔ら日本を代表するミュージシャンを集め、モダン、フリーを中心にディキシーやスイングにも配慮したプログラム（インストゥルメンタル中心）であり、数年はタモリが司会を務めていた。しかし、80年以降、観客がかなり減少した。
- 神戸文化大ホールではバブル期の80年代末から90年代初めにかけて、デューク・エリントン楽団、グレン・ミラーUK各2回、穠吉敏子カルテットが1回公演を行っているが、中でも穠吉敏子カルテットの観客動員は芳しいものではなかった。
- 1969年にオープンした Sone (ソネ) は80年代頃から女性ヴォーカル中心の編制で成功。神戸を代表するライブハウスとなる。他店も同じ方式を採用。→神戸のジャズは女性ヴォーカル中心で「神戸ジャズ」という言葉も存在する。→2000年より神戸新開地ジャズヴォーカル・クイーンコンテストを開催。

♪ ジャズを楽しめるお店 ♪

Live & Restaurant **HOLLY'S**

神戸市中央区加納町
2-4-10
TEL 078-251-5147
www.kobe-hollys.com

Kobe Live House **BIG APPLE**

神戸市中央区山本通
3-14-14 1-アハイツB-1
TEL 078-251-7049
www.bethome.net/bigapple

Green Dolphin

神戸市中央区中山手通
1-22-13 ヒルサイドテラスB1F
TEL 078-251-8626
www.green-dolphin.com

Music Bar **Ellie's**

神戸市中央区中山手通
1-22-13 ヒルサイドテラスB1F
TEL 078-252-2728
www.papa2.ellies.jp/

Live Jazz Bar **Basin Street**

神戸市中央区中山手通
1-22-13 ヒルサイドテラス3F
TEL 078-261-8939

MIDNIGHT SUN

神戸市中央区中山手通
1-22-10 魚ビル2F
TEL 078-242-1000

Y'S ROAD

神戸市中央区中山手通
1-22-10 魚ビル2F
TEL 078-241-8803

Restaurant & Live **SONE**

神戸市中央区中山手通
1-24-10
TEL 078-221-2055
www.sone-kobe.com

SATIN DOLL 神戸

神戸市中央区中山手通
1-26-1 ハッカビル2F
TEL 078-242-0100
www.satindollkobe.jp

Bar Martini

神戸市中央区加納町
4-8-15
A-M-U PLAZA B1
TEL 078-322-1117

Music Spot **阿闍世**

神戸市中央区中山手通
1-10-5
TEL 078-391-0865

DAY by DAY

神戸市中央区中山手通
1-10-10 天成ビルB1F
TEL 078-391-8678

The Live House **CHICKEN GEORGE**

神戸市中央区下山手通
2-17-2 B1F
TEL 078-332-0146

Bistro **Side by side**

神戸市中央区中山手通1-21
ホワイトキャッスルビル2F
TEL 078-391-6789
bistro-sidebyside.com

Jazz & Booze **さりげなく**

神戸市中央区中山手通
1-8-19 三浦ビル2F
TEL 078-331-9762

Live House **Great Blue**

神戸市中央区夢ノ崎町
5-5-29 三絆ビル地下1F
TEL 078-231-0071
www.livehousegreatblue.com

Live Bar

ALFIE

神戸市中央区北長狭通1-20
甲南アセット桂原ビル5F
TEL 078-331-5977
www.10.plaza.or.jp/alfie/

Jazz Bar **HENRY**

神戸市中央区北長狭通
1-3-11 ノールビルB1F
TEL 078-391-2689

Jazz Bar **GOODMAN**

神戸市中央区北長狭通
1-9-11 コーストフロムビル5F
TEL 078-392-1253
www.my-littletown.com/goodman

Live Space **APPLAUSE**

神戸市中央区北長狭通2-11-5
グランドコーストビル6F
TEL 078-391-7328
www.kappo-sideby-side.applause

Diggin' the Bar

神戸市中央区北長狭通
2-4-7 鹿姫ビル2F
TEL 078-333-5103

MOKUBA'S TAVERN

神戸市中央区北長狭通
3-12-14 サ・ベガトアロード101
TEL 078-391-2505
www.mokuba-kobe.com

JAVA

神戸市中央区北長狭通
1-31-13
TEL 078-331-1019

Live Room **Voice**

神戸市中央区三宮町2-11
三宮センタープラザ西館2F
TEL 078-334-3668
www.jack-voice.biz

ジャズ喫茶 **JAMJAM**

神戸市中央区元町1-7-2
ニューモビルB1
TEL 078-331-0876

Funky & Soul Jazz Bar **Doodlin'**

神戸市中央区元町通
1-12-7 コモビル2F
TEL 080-5011-6081
ameblo.jp/doodlin/

Live Space **萬屋宗兵衛**

神戸市中央区元町通
1-8-4 B1
TEL 078-332-1963
www.soubel.net

Jazz & Coffee **ジャズ喫茶 M&M**

神戸市中央区栄町通2-7-3
TEL 078-393-0788

BARes

神戸市中央区波止場町6-5
国産2号2階(上屋SO-KO)
TEL 078-341-1518

Lounge & Bar **グラン・ブルー**

神戸市中央区波止場町7-2
ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド2F
TEL 078-371-1188
www.1-s.jp/restaurants/grandblue.php

お好み焼きとジャズ 酒焼肉喰店

神戸市中央区多聞通4-1-1
歩8番館B1F
TEL 078-381-1166
negikura-hanba.com

SWingVille

神戸市西区押部谷町
342-1
TEL 078-994-5961
www.1.bn.jp/~swingv

M's Kitchen

神戸市垂水区名谷町604
TEL 078-707-1470
www.geocities.jp/m_kitchen/mkitchen.htm

Music & Cafe **キャロル**

加古川市別府町別府837-1
TEL 079-435-5212
www.carol-jazz.com

Cafe & Studio **FunFULL**

明石市立石2-3-32
TEL 078-920-9588

LiveHouse & Restaurant **POCHI**

明石市本町2-1-1
インティイビルB1F
TEL 078-911-3100
www.pochi-live.com

Live Jazz & Fine Chinese Cuisine **Left Alone**

芦屋市東山町4-13
TEL 0797-22-0171
www.left-alone.jp

Jazz Cafe Bar **STAGE**

伊丹市伊丹2-4-1
TEL 072-777-3818
www.geocities.jp/stage_jazz

BAR **M-CUATRO**

尼崎市南武庫之荘1-14-20
ジミーズマーケット2F
TEL 06-6433-3126
www.geocities.jp/m_cuatro/mcuatro.htm

「ジャズの街神戸ガイドマップ」より作成（2014年9月現在）。お店の詳しい情報やレポートは http://kobejazz.jp/jazz_report/ を参照のこと。上記以外にもたくさんのお店があります。

講師プロフィール

岡村正史（おかむら・まさし）1954年三重県生まれ。ほどなく神戸市に移住。1976年同志社大学文学部文化学科文化史学専攻卒業。1980年同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。1980年より兵庫県高校教諭（社会科）。芦屋高校には2009年度～2013年度勤務（本名、岡田正）。2014年定年退職。2002年編著『力道山と日本人』（青弓社）により橋本峰雄賞受賞。2009年『ミネルヴァ日本評伝選 力道山』（ミネルヴァ書房）により兵庫県高等学校教育研究会社会部会研究会賞受賞。2010年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。2014年9月より神戸学院大学人文学部非常勤講師として「歴史文化特別講義」を担当した。近作に「力道山ヒーローと偏見」（『ひととの精神史』第二巻『朝鮮の戦争』所収、岩波書店、8月25日刊行）がある。

1997年頃よりジャズヴォーカルを習い、2012年より呉川ウォーターブリッジとしての活動を開始。YouTubeにプロモーション・ビデオ（5分44秒）をアップ中。岡村正史で検索を！